

令和7年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和7年6月12日
愛知 県

1 雑草名 ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）*Alternanthera philoxeroides*

2 発生作物 水稻（水田及びその周辺）

3 発生地域 尾張地域

4 発生確認の経過

令和7年5月下旬、県内の水田畦畔で本種と疑われる雑草の発生が確認された。
農業総合試験場で、周辺の水田内や水田畦畔、水路等で発生している疑わしい草を調査したところ、ナガエツルノゲイトウと同定した（写真1～5）。

5 国内での発生状況

日本では平成元年に兵庫県で初めて見つかри、令和6年時点で26都府県（水田への侵入が確認されているのは14府県）に侵入・定着の報告がある。（農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」より）

6 本種の生態

- (1) 本種は南米原産のヒユ科の多年生雑草である。
- (2) 開花期は4～10月であるが、国内で発生している系統は種子をつけず、節を含む切断茎や根の断片からの栄養繁殖により増殖する。
- (3) 茎の再生力が強く、1 cm以上の断片から容易に発根して増殖する。
- (4) 茎はちぎれやすく、水に浮き、断片が用水や河川を介して運ばれるため拡散しやすい。また、水陸両生で、水田だけでなく畦畔や畑地にも侵入する。
- (5) 気温が4℃以下で生育が止まり、霜が数回あつると地上部は枯れるが、地中深くまで下した根は、氷点下以下の冬の寒さにも耐え越冬する。

7 形態的特徴

葉は節から1対つき、長さは2.5～5 cm、幅は0.7～2 cmで、先端がややとがる。
花は小さな花が集まった球状で、葉の脇から1～4 cmの花柄を伸ばして発生する。
茎は空洞（ストロー状）で、節に短い毛が生え、表面はなめらかである（図）。

8 被害

- (1) 水田で本種が繁殖すると、作物との競合による収穫量の減少や農業機械の作業性の低下（コンバインの刈取り効率の低下、詰まりの原因など）をもたらす。

- (2) 水稻が登熟期に台風などで倒伏し、その上に覆い被さるように本種が繁茂するとコンバイン収穫が困難になる。
- (3) 水路で増殖すると、水路を塞ぎ、取水・排水の障害になることがある。

9 水田（水稻）における防除対策

- (1) 本種の発生が確認されている水田畦畔では、刈払い（機械除草）による茎断片の拡散を防止するため、除草剤中心の管理を行う（表1）。
- (2) 発生が確認された水田（移植水稻の本田防除）では、生育に応じて有効成分にピラクロニルまたはフロルピラウキシフェンベンジルを含む除草剤で防除する（表2）。
- (3) イネ収穫後の水田（水田刈跡）におけるナガエツルノゲイトウ再生個体に対しては、非選択性茎葉処理型除草剤（ラウンドアップマックスロードなど）で防除する。
- (4) 除草剤中心の管理においては、除草剤の使用前にラベルの表示（登録内容や使用上の注意事項など）を確認する。特に成分ごとの総使用回数に注意する。
- (5) 農機具に付着した本種を含む土等から拡がる恐れがあるため、本種の発生していないほ場から作業を開始する。また、本種の発生しているほ場での作業後は、他のほ場へ移動する前に農機具（ロータリー等）の土（草）をしっかりと落とす。
- (6) 農研機構「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」に防除体系等が紹介されているため参考とする。
(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168972.html)

10 水路等における対策について

対策については「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル（※）」を参照する。

11 本種への対応にかかる注意点

本種は外来生物法の特定外来生物に指定されており、拡散を防ぐため、栽培、保管、運搬、野外への放出・植栽が禁止されている。また、駆除を実施する際に手続き等が必要になる場合があるため注意が必要である。詳しくは「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル（※）」を確認するか環境局環境政策部自然環境課に問い合わせる（12 連絡先参照）。

※ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル(農林水産省、環境省、農研機構)

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/nagae-33.pdf

12 連絡先

- (1) 本特殊報に関すること
農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室（電話 0561-41-9513）
- (2) 水田や畑（農地）での防除に関すること
農業総合試験場普及戦略部技術推進室（電話 0561-41-8966）
- (3) 農地以外での発生に関すること
環境局環境政策部自然環境課（電話 052-954-6230）または市町村の環境関連部署



写真1 発生した畦畔



写真2 発生した畦畔（拡大）



写真3 花（花柄が長い）



写真4 畦畔から水田への侵入



写真5 水田内での発生

ナガエツルノゲイトウの特徴

同定ポイント

【葉】

- ・節から1対の葉が付く
- ・葉の先がややとがる

【茎】

- ・茎は空洞（ストロー状）
- ・節に短い毛が生える
- ・茎の表面はなめらか

【花】

- ・花柄は葉のわきから伸びる
- ・花柄の長さは約1~4cm
- ・花は、小さな花が集まった球状

【葉】

節から一対の葉

葉の先はややとがる

1cm
長さは 2.5~5 cm
幅は 0.7~2 cm

【茎】

1mm
茎は空洞（ストロー状）

節に短い毛

茎の表面はなめらか

節からよく分枝

【花】

球状花の直径は
約 1~1.5 cm

花柄は約1~4 cm

花柄は葉の脇から伸びる

図 ナガエツルノゲイトウの見分け方

出典：ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル（農林水産省、環境省、農研機構）

表1 水田畦畔におけるナガエツルノゲイトウに対する主な除草剤
(令和7年6月11日時点)

作物名	農薬名	農薬の種類	使用時期	本剤の使用回数※1
水稲 (水田畦畔)	ロイヤント乳剤※2	フロルピラウキシフェンベンジル乳剤	収穫45日前まで (雑草生育期)	2回以内
水田作物 (水田畦畔)	ザクサ液剤※3	グルホシネートPナトリウム塩液剤	収穫7日前まで (雑草生育期)	2回以内
水田作物 (水田畦畔)	ラウンドアップマックスロード※3	グリホサートカリウム塩液剤	収穫前日まで (雑草生育期)	3回以内

※1 成分ごとの総使用回数に注意する

※2 適用雑草名「多年生広葉雑草」

※3 適用雑草名「多年生雑草」

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

農研機構「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」を参考に作成

表2 水田(本田)におけるナガエツルノゲイトウに対する主な除草剤
(令和7年6月11日時点)

作物名	農薬名	農薬の種類	使用時期	本剤の使用回数※1
移植水稲	テッシン1キロ粒剤	ピラクロニル・ フェンキノトリオン・ ベンスルフロンメチル粒剤	移植時 ——— 移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし移植後30日まで	1回
移植水稲	アットウZ1キロ粒剤※2	テフリルトリオン・ ピラクロニル・ プロピリスルフロン粒剤	移植時 ——— 移植直後～ノビエ4葉期 ただし収穫60日前まで	1回
移植水稲	ストレングス1キロ粒剤	テフリルトリオン・ トリアファモン・ フロルピラウキシフェンベンジル粒剤	移植後5日～ノビエ4葉期 ただし移植後30日まで	2回以内
移植水稲	ウィードコア1キロ粒剤※2	フロルピラウキシフェンベンジル・ ペノキススラム・ ベンゾビシクロン粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし収穫60日前まで	2回以内
移植水稲	ロイヤント乳剤	フロルピラウキシフェンベンジル乳剤	移植後20日～ノビエ5葉期 ただし収穫45日前まで	2回以内

※1 成分ごとの総使用回数に注意する

※2 適用雑草名「多年生広葉雑草」

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

「ナガエツルノゲイトウ有効剤として実用化可能と判定された水稲用除草剤(2025年2月現在)」
((公財) 日本植物調節剤研究協会ウェブページ 雑草防除・植物の生育調節に関する技術情報 に
公開) を参考に作成。